

# にのみや学園通信

R7.11.17

第27号

## 二宮小学校における校内研究プロジェクト

小学校でも2学期に入ってから、各校において校内研究プロジェクトが本格的に始まっています。10月9日(木)に二宮小学校にて校内授業研究会が行われました。2学年を担当する先生方がより良い授業実践に向けて話し合いとプレ授業を重ねてきました。

2年1組の担任である高野直樹先生が国語の研究授業(教材名:お手紙)を行いました。児童たちは、自主的に授業前からグループごとに物語の音読(役割読み)に取り組んでいました。先生は前回の授業の確認を行った後、『かえるくんは、どんなかえるなのでしょう。』という今日の授業の学習課題を黒板に明記しました。さらに、先生は場面を想起しやすくするために挿絵を活用し、かえるくんの言動を基に考えるようにアドバイスをしました。

児童たちはワークシートに自分の考えを記述した後、隣や近くの友達と意見交換を行いました。さらにその後、児童は自席に戻り、自分の考えを積極的に発言しました。先生は自分の考えの根拠となる文を付けて発言するように助言するとともに、先生はかえるくんの人物像だけではなく、それをしっかりと黒板に記述していました。授業のまとめとして先生は、授業の始まりと終わりを比較し、自分なりのかえるくんの人物像の捉えを大切に、それをワークシートに記述するよう児童に伝えました。

今年度、二宮小学校は『自ら進んで学び続ける子どもを目指して ~どの子ども「分かった、できた、楽しい」を実感する授業づくり~』を研究テーマに研究を重ねています。

授業後、すべての教員が一同に会し、グループごとに研究授業を振り返りました。先生方は、『子どもたちは、分かる・できる楽しさを味わっていたか』および『分かる・できる楽しさを味わわせるための工夫・改善について』の2つについて意見交換と協議を行いました。その後、校内研究の講師である横浜国立大学教職大学院教育学研究科高度教育実践専攻教授の青木弘先生より指導講評をいただきました。

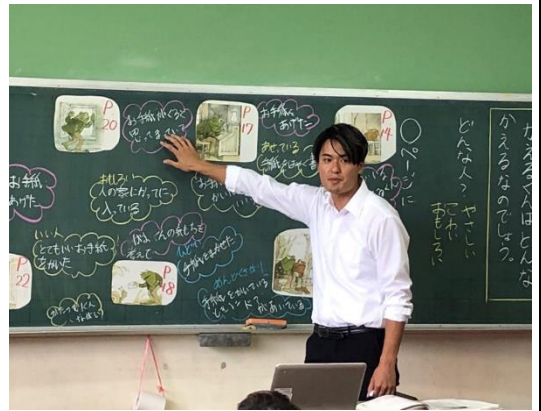
青木先生からは、研究テーマを実現していくためには、まずは教師自身が進んで学び続けること、毎日分かった・できたを体験すること、毎日が楽しいを実感することが何よりも大切であり有効であるという助言をいただきました。さらに、授業改善の指針として『未来を生きる子どもたちのためには、「どんな子」の育成を目指すのか』をしっかりと捉えることであり、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教師自身の主体的・対話的で深い学びが必要である等のアドバイスをいただきました。青木先生ありがとうございました。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

研究会に取り組む二宮小学校の先生方の姿には、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



# にのみや学園通信

R7.11.18

第28号

## 山西小学校における校内研究プロジェクト



10月24日(金)に山西小学校にて校内研究授業・授業協議会が行われました。1年1組の担任である伊藤沙和子先生が国語の研究授業(教材名:くじらぐも)を行いました。この『くじらぐも』は、自分たちと同じ

1年生が体育の授業時間という現実から、くじらぐもに乗るために全員で手をつなぎ、声をそろえてジャンプして乗り込み広い空をみんなで泳いだ後、またグラウンドに戻ってくる。という場面転換がダイナミックで動きのあるファンタジーな作品です。

児童たちは、最初に自分たちが出演した自作の映画を鑑賞しました。これは、初めて『くじらぐも』を読んだ児童から発せられた「乗ってみたい」、「探検してみたい」などの声を伊藤先生がしっかりと受け入れクラス全員が演者になることで、楽しみながら主体的に活動できると考え制作されました。

鑑賞後、「くもにのって、どんなおしゃべりをしたいかな。おもいうかべてみよう。」という学習課題を児童に伝えました。さらに、先生は「みんなで一緒にジャンプしてみよう。」と児童たちに呼びかけ、児童と共に手をつなぎ、クラス全員で「天までとどけ!・・・1,2,3」と児童たちが想像の世界を広げられるような支援を行っていました。

その後、児童たちは「友達と一緒に考えよう。」という先生の呼びかけに対して、自分の写真入りのプリントに自分の考えを仲間と一緒に記述しました。さらにそれを黒板に張られた大きなくじらぐもの上に貼りました。児童たちは貼られた友達の記述を読み自らの学びを深めていました。



しばらくしてから、ある児童から「お休みの子と伊藤先生がまだくじらぐもに乗っていないよ。」という声があがりました。それを聞いた先生は「欠席の人は後日書いてもらってからくもに乗せるね。」と言った後、先生も自分の写真入りのプリントに自分の考えを書き、くじらぐもの絵の上に貼りました。

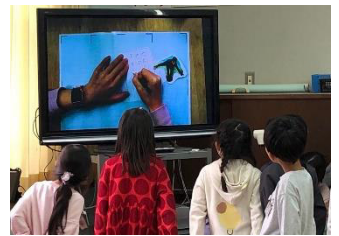
今年度、山西小学校は『「見方・考え方」を働かせる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～誰一人取り残されない学級集団、学習集団をベースに～』を校内研究のテーマとし研究を重ねています。授業は「みんなくじらの上に乗れて良かったね!」という伊藤先生の笑顔あふれるメッセージで終わりました。自分一人ではなく、みんなで仲良く共に学んでいるという学びの安心感を児童が自然と感じることができ授業が始めから終わりまで展開されていました。『～誰一人取り残されない学級集団、学習集団をベースに～』の校内研究のテーマを意識した山西小学校の先生方の熱い思いが凝縮された素晴らしい授業でした。

授業後、すべての教員が1年1組の教室に集合し、グループごとに研究授業を振り返りました。先生方からは、「子どもたちは言葉の裏にある心情を自分の経験と重ねあわせて考えていた」、「映画を制作したことにより子どもの活動が主体的な取組につながっていた」、「見方・考え方につながる子どもの表現を認めて拾い上げていくことが教師の役割である」等の意見が出されていました。『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて積極的な意見交換が行われていました。山西小学校の先生方の姿にも、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



# にのみや学園通信

R7.12.3  
第29号

## 今年もラディアンを中学生の作品が彩りました!!

10/15(水)~11/16(日)

にのみや学園の両中学校では、10月に伝統ある文化祭「汐鳴祭(二宮中)」と「秋麗祭(二宮西中)」が開催され、迫力ある合唱をはじめ、今年もたくさんの芸術作品が展示されました。特に、文化祭に向けて制作された「スタンドグラス(二宮中)」と「切り絵(二宮西中)」は、両校の伝統的な取り組みとなっていて、鮮やかな色彩と繊細なデザイン、また、バラエティに富んだ数々の力作は、どれも素晴らしい作品に仕上がっていました。

昨年度、「この力作を学校内の展示だけにするのはもったいない!」「子どもたちがすくすくと育っていることを地域の方々に広めたい!」という企画が生涯学習課から急遽浮上しました。昨年度大好評だったため、今年度も実施され、にのみや学園の中学生の作品がラディアンを彩りました。

展示した期間、ラディアンでは二宮町文化祭やふるさとまつりが開催されており、今回も多くの来場者たちがそれぞれの作品の前で足を止めて見入る姿が印象的でした。ラディアンの窓口には「今年の作品も素晴らしいですね!」「中学生のパワーあふれる作品ですね!」など、たくさんのご意見が寄せられたそうです。

また、作品は図書館の窓と県道側2階の大きな窓に展示され、夜8時までライトアップされたことから、暗闇の中、幻想的に浮かび上がるスタンドグラスや切り絵は、ラディアンの前を通る多くの方々の目を引くものとなり、にのみや学園の子どもたちがすくすくと育っていることが、日頃から地域で見守ってくださっている方々に伝わるともよい機会となりました。

今後も、小中学校の連携や学校の枠を超えた取り組みを通して、子どもの健やかな成長につなげていきたいと思えます。…すべては「にのみや学園の子どもたち」のために…

ラディアンを

【展示期間】  
10/15(水)~11/16(日)

中学生の作品が彩ります  
スタンドグラス(二宮中) 切り絵(二宮西中)



県道側窓 昼



県道側窓 夜



図書館内



図書館内

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

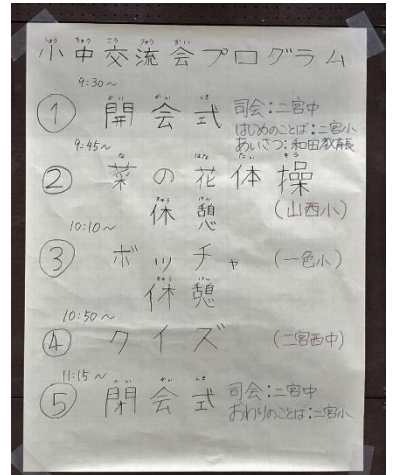
# にのみや学園通信

## にのみや学園特別支援学級交流会に63名の小中学生が参加

11月13日(木)に二宮町立体育館にて、にのみや学園特別支援学級交流会が開催されました。今年度は63名の小中学生が参加しました。各学校が8つのグループに分かれグループごとに3つのプログラムを楽しみました。開会式・閉会式ともに二宮中学校の生徒が務めました。はじめの言葉と終わりの言葉は、二宮小学校の児童の代表が行いました。

開会式後の最初のプログラムは、山西小学校が担当した「菜の花体操」でした。音楽を聞きながら、スクリーンに映った「菜の花体操」の動きに合わせて子どもたちだけではなく、先生方も一緒に身体を動かしました。

次に、一色小学校が担当した「ボッチャ大会」を行いました。グループごとの対抗戦として4試合行いました。各自が2回ボールを投げ、投げたところの合計得点で勝敗を決めました。



最初はうまく投げられなかったものの何回か投げるうちに子どもたちはコツを覚えたようで、最後の試合はどの会場も高得点での争いとなりました。

最後に、二宮西中学校が担当した「クイズ大会」を行いました。出題者の問いに全員が○か×を決めて体育館のそれぞれのエリアに移動するという方法で回答しました。生徒が考えた楽しい問題が多くありましたが、問題の中に「自由の女神は裸足ですか?」という問題がありました。さて、正解はどちらだったのでしょうか?...

今回の交流会を通じて、(1)小学生と中学生のつながり、(2)子どもたちと先生方とのつながり、(3)先生と先生とのつながり、(4)保護者と保護者のつながり、といった4つのつながりがより一層強くなったのを感じました。学校の枠を越えて子どもを支え、連携する先生方、そして支援教育補助員の方々の姿は、「にのみや学園」として目指している具体の一つです。5校の教職員のチームワークの良さは、「にのみや学園」の自慢です。...すべては「にのみや学園の子どもたち」のために...



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



# にのみや学園通信

R7.12.15

第31号

## 一色小学校における校内研究授業

11月20日(木)の6校時、一色小学校にて校内研究授業が行われました。今年度、一色小学校は『見方・考え方を働かせ、認め合い高め合う一色の子を育む授業づくり ～逆算して考え、発問と資料提示で作る授業デザイン～』を研究主題として研究を重ねています。

6年1組の担任である小林弦矢先生が社会科の研究授業(単元名:全国統一への動き)を行いました。先生は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の業績によって全国が統一されていったという前回までの授業の確認を行った後、『三武将のうち、担任の先生にするならだれ?』という今日の授業の学習課題を黒板に明記しました。さらに先生は、児童が今までの学習を想起しやすくするために教科書の挿絵を黒板に貼りました。小林先生は「社会科の視点で、三武将の行った政策をしっかりとおさえて考えるように。」というアドバイスをしました。

それを受けて児童たちは、自分のノートや教科書・資料集を見直し、再度三武将の政策について振り返りました。その後、児童たちは、隣や近くの友達と積極的に意見交換を行いながら自らの考えを深めました。

さらにその後、先生は「三武将のうちだれが担任にふさわしいのかが決まっている人は前に出て自分の名前が書いてあるマグネットシートを挿絵の下に貼ってください。」と児童たちに呼びかけました。児童たちは友達がどこに貼るのかを気にしつつも自分の考えを挿絵の下に貼りました。

先生は授業の終わりに、「紙にまとめるアナログでも、タブレットを活用しデジタルでまとめるのもよいので、社会科の視点で自分の考えをまとめてください。」という指示を児童たちに伝えました。児童たちは思い思いの方法で黙々とその課題に取り組み自分の学びをさらに深めていました。



授業後、すべての教員が会議室に集まり校内授業研究会を行いました。今回の研究会は、(1)逆算して考える、(2)発問の工夫、(3)資料提示の工夫の3つを研究のポイントとして授業を返りました。先生方からは、「話し合いができる児童の環境と関係性がしっかりとできている。」「1学期に学んだ公民の現代社会の構造や課題と関連付けて考察するといった社会科の見方・考え方ははたらかせる学習活動ができていた。」等の意見が出ました。閉会の挨拶で教頭先生からの「先生が日々の授業で児童理解をしっかりと積み重ねてきたことが今日の授業でうかがえた。素晴らしい授業が展開されていた。」といった言葉で会は終了しました。

研究会に取り組む一色小学校の先生方の姿にも、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していこうとする前向きさを感じました。・・・すべては「にのみや学園の子どもたち」のために・・・

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

